

新船「しまちどり」が竣工



▲竣工した「しまちどり」

沼島と淡路島（灘及び洲本）の間を運航する沼島汽船

（株）が新船「しまちどり」を建造し、沼島において3月31日、竣工式が執り行われました。この新船は、現行の「しまちどり」が老朽化したことを受け、建造されました。新船は先定員数が66人から82人に増

道の駅「福良」認定

ふるさと活性化センター「なないろ館」や昨年8月にオープンした「淡路人形座」などがある福良港一帯が道の駅に登録されました。道の駅は幹線道路沿いに整備された休憩施設で全国に約1000箇所あります。今回の認定は県内で31箇所目、島内では4箇所目となります。市役所中央庁舎で4月9日、兵庫国道事務所の黒田所長から中田市長に登録証が手渡されました。



▲黒田所長から登録証を受け取る中田市長

市営福良住宅が完成

市営福良住宅の竣工式が3月27日に行われました。福良（仁尾（漁民）住宅を含めた、福良地区内にある市営住宅6団地の集約建て替えのため、平成23年10月から整備を進めていました。南海トラフ等を震源とする地震発生時の津波を想定して新しい住宅では居住スペースを1階には設けず、2階から6階に配置しています。竣工式は1階集会所で催され、神事後、関係者たちが



▲竣工式が行われた市営福良住宅



▲本濱会長（左）から谷口会長（右）へ手渡されました

3月10日に開催された「東日本大震災復興支援チャリティカーラオケ発表会」に寄せられた義援金の贈呈式が3月29日に行われました。義援金はチャリティカーラオケ発表会収益金の一部と当日来場者の募金を合わせて14万9169円となりました。音楽によるまちづくり実行委員会本濱会長から南あわじ市社会福祉協議会谷口会長へと託され、今後、東日本大震災の被災地へ贈られます。

暴力団関係情報を警察と共有



▲合意書に調印した中本南あわじ警察署長と中田市長

市では暴力団による不当な影響の排除を推進し、安全で安心な市民生活の確保することを目的に3月の定例議会において「市暴力団排除条例（下記）」が可決。4月1日の施行を前の3月27日、南あわじ警察署と市が暴力団に関する情報を共有する「暴力団関係情報の取扱いに関する合意書」の調印が行われました。調印後、中田市長は「今回の調印が抑止力になれば良いと思う。これから警察の指導を得ながら市民の安全・安心のために取り組む」と力強く話しました。

市暴力団排除条例施行

4月1日から兵庫県暴力団排除条例と連携し、本市の暴力団排除に関する基本理念その他必要な事項を定めた「南あわじ市暴力団排除条例」を施行しました。県警や暴力団追放兵庫県民センターなど関係機関などと連携を図りながら市、市民、事業者が協働して社会全体で暴力団排除を進め安全で安心な地域社会づくりを進めます。詳しくは生活環境課（☎43・5024）までお問い合わせください。

ふるさと納税

（寄附ありがとつごいしました。）

ふるさと南あわじ応援寄附金

区分	件数	金額
南あわじ市内	418件	58,866,719円
市外（島内）	58件	10,351,000円
市外（島外）	261件	30,544,940円
合計	737件	99,762,659円

詳細は市のホームページに掲載しています

ふれあい市長室

未来への布石は今生きる者の使命

南あわじ市長 中田勝久

市民の皆様や学校法人順正学園、関係者各位のご尽力を賜り、元の県立志知高等学校を再生し、吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部が開校しました。定員60名のところ56名（内女性7名）の学生が学ぶこととなりました。是非とも学生さん達を地域で支えていただき、ふるさとを再生する優秀な人材を育てていただきたいと存じます。

教授は、元神戸大学副学長の眞山滋志学部長を筆頭



▲吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

一方、最重要課題の防災対策においては、南海トラフ巨大地震及び津波を想定して、小中学校・保育所の耐震化や屋内外告知システムの構築、避難路整備等数多くのハード事業と併せて、「逃げろ」を主眼に自主防災組織の構築や防災計画の見直しなどのソフト事業等様々な施策を展開しておりますが、ま

まだまだ課題が山積みです。先般、和歌山県海南市の下津港においては、国土交通省の浮上式の防波堤動作試験が始まりました。防波堤の鋼管は円柱の形で、直径約3メートル、海面上約7.5メートルに浮上し、湾口幅約230メートルにわたって設置を進めています。南あわじ市は、県下で最も大きな被害を受ける地域として迅速に準備を整えなければなりません。ハード事業には限界がありますが最低限度の対策が必要であります。兵庫県が検討課題にしております福良の湾口防波堤建設については、一部批判的な発言もありますが、防波堤について何もしないでよいのか、市民の財産を少しでも守るためにはどうすべきかなど、地域の方と検討する必要があります。

時は止まっておりません。市民の皆様におかれましては、将来世代への責務として今生きる者が何をすべきか考え、共に行動してまいります。責任あるご教授をお願い申し上げます。

チャリティー収益金・募金を寄付